【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【公開番号】特開2005-314496(P2005-314496A)
【公開日】平成17年11月10日(2005.11.10)
【年通号数】公開・登録公報2005-044
【出願番号】特願2004-131964(P2004-131964)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｄ 201/00 (2006.01)
Ｃ０９Ｄ 5/02 (2006.01)
Ｃ０９Ｄ 7/12 (2006.01)
Ｃ０９Ｄ 129/04 (2006.01)
Ｃ０９Ｄ 131/04 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｄ 201/00
Ｃ０９Ｄ 5/02
Ｃ０９Ｄ 7/12
Ｃ０９Ｄ 129/04
Ｃ０９Ｄ 131/04

【手続補正書】
【提出日】平成22年6月18日(2010.6.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
ここで、上記隠蔽剤組成物としては、例えば、アクリル系樹脂エマルジョン、酢酸ビニル系樹脂エマルジョン、エチレン－酢酸ビニル系樹脂エマルジョン等に隠蔽成分を配合したものが知られている（例えば、特開平５－１１６１０３号公報参照）。
これらの隠蔽剤組成物を用いて化粧板を製造する場合、基材に隠蔽処理を行った後、突き板貼りや化粧紙貼りの際に、通常、スチレン・ブタジエン系樹脂ラテックスや酢酸ビニル系樹脂エマルジョンにアミノ系樹脂を配合したホルムアルデヒド系の接着剤が使用され、熱圧接着されている。この場合、上記隠蔽剤組成物は耐熱性及び耐水性にさほど優れるものではないのだが、ホルムアルデヒド系の接着剤における、低分子で浸透性のよいアミノ系樹脂等が熱圧接着の際に隠蔽剤層中に浸透し、隠蔽剤層が強化されるため、熱圧接着時の初期接着性、耐水性及び耐熱性等に大きな影響を与えることはなかった。